
日口共同声明記者会見(最終)の記録

2013年5月8日

録音速記:加賀山 茂

■TBS 記者

えーTBS 緒方です。〔メモを持っている〕

まず、安倍総理にお聞きします。えー北方領土の〔下を見てメモを読む〕帰属問題が解決されない中ですね。現地では、ロシア政府によるインフラの整備が進んで、外国系企業が、地熱、



風力発電施設の建設を受注をするなど、ロシアによる実効支配が強まっているという現実があります。

日本にとっては、受け入れがたいような状況になっていると思いますが、〔顔を上げる〕安倍総理は、どのような認識をお持ちでしょうか。

〔下を向く〕そして、プーチン大統領にもお聞きします。〔顔を上げる〕ロシア政府は今後も、〔下を向く〕同じような政策をえ北方領土に〔顔を上げる〕対して継続するお考えでしょうか。〔下を向く〕そして、その場合、〔顔を上げる〕日本との領土交渉への影響というものについては、どのようにお考えでしょうか。

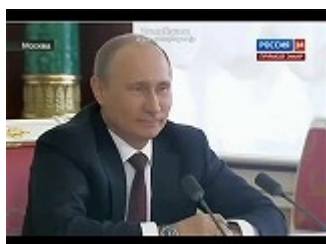
■安倍総理大臣

ご指摘のようなですね、えーまっ状況は、あーまっ確かにですね、えー日本の立場と相容れない、えーわけではありますが、まっ今回の共同声明においてですね、えーまっ「双方の立場の隔たりを克服し」と、えーあるように、えーまっ重要なことはですね、そのようなえー問題をですね、根本的にえー解消するために、まっ北方領土問題をですね、えー解決するしかないということで、えーありまして、



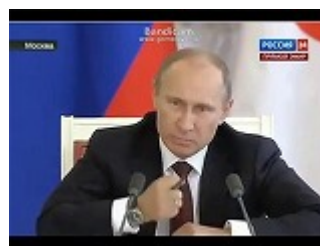
まっ今回のプーチン大統領との合意を受けてですね、えー交渉を加速化し、そして、平和条約の締結に向けて、努力をしていきたいと思います。

■プーチン大統領



私が今注目したのは、記者の方が、この質問を紙から読み上げていただいたかと思います。この質問を多分他の人からもらったと思いますが、その人に対して次のことを伝えていただきたいと思います。

1. この問題というのは、我々が作ったものではなくて、これは過去からの遺産であって、もう 60 年前からの過去です。それは、私たちが、真にこの問題を解決したいと思います。相互に受け入れ可能な形で解決したいと思います。
2. もしこのプロセスにおいて、ご協力をなさりたいならば、この問題の解決に際しまして、環境の整備が必要になってくると思いますけれども、それは良き関係を作ること、そして信頼排除ということが重要だと思います。もしこのプロセスにおいて妨げを起こしたいならば、それも可能です。そのためには、激しくて直截な質問をして、同じような激しくて、直截な回答をもらうことができるかと思います。それは、それ以外の方法はないと思います。は一つ。
3. この地域なんですけれども、ロシアと他の地域と同じようなロシアの国民、ロシアの国籍を有する人たちが住んでいるわけです。我々が、この人たちの生活を考えなければならないし、この生活の水準を考えなければならない。



そして、ロシアのこの平和条約問題の締結に関するロシア側の立場がよく知られているものがあります。

しかし、私たちが、そのために集まったわけではなくて、私たちが集まったのは、平和条約交渉の再スタートとして、解決策を模索するため

に、今回は集まったわけです。

「ありがとう（日本語）」（拍手）